

NTT-ATの5つのビジョン。



 **WinActor**<sup>®</sup>

**Ver.7.2.0 リリースノート**

NTTアドバンステクノロジー株式会社



# WinActor Ver.7シリーズとは

WinActor Ver.6 シリーズをリメイクした全く新しいWinActorです。Ver.7シリーズでは、最大の特徴である「現場フレンドリー」の思想を一層進化・深化させ、初心者はもちろん上級プログラマにとっても対応可能な、誰もが使いやすいRPAを追求します。

Ver.7.2.0には以下の特徴があります。

- 初心者向けエディタ(WinActor Storyboard)
- UI Automationを用いた新しい自動記録モード
- Chromium版Microsoft Edge向け自動記録モード
- スクリーンセーバー解除機能
- WinActorノート及びWinActor Eyeの非Java化
- IE操作機能の実行速度の改善
- シナリオファイル呼び出し機能
- 呼び出し履歴の表示機能
- 実行時間の表示機能
- 付箋の表示／非表示切り替え機能
- ようこそ画面へのリンク追加
- フォントサイズ変更機能
- フローチャート画面の操作性改善
- OCRマッチングのテスト結果表示機能
- ライブラリ表示の絞り込み



## 新機能





# 新機能の表記について


このリリースノートではライセンス、機能毎の違いを説明するために、次の表記を用います。

 この表記がある場合、NL版でご利用できます。

 この表記がある場合、FL版でご利用できます。

 この表記がある場合、フル機能版でご利用できます。

 この表記がある場合、実行版でご利用できます。

 この表記がある場合、管理実行版でご利用できます。

# 初心者向けエディタ(WinActor Storyboard) (1/4)

NTT-ATの5つのビジョン。



これまでよりさらに「現場フレンドリー」なRPAを実現するため  
**初心者向けエディタ(WinActor Storyboard)**を提供します。



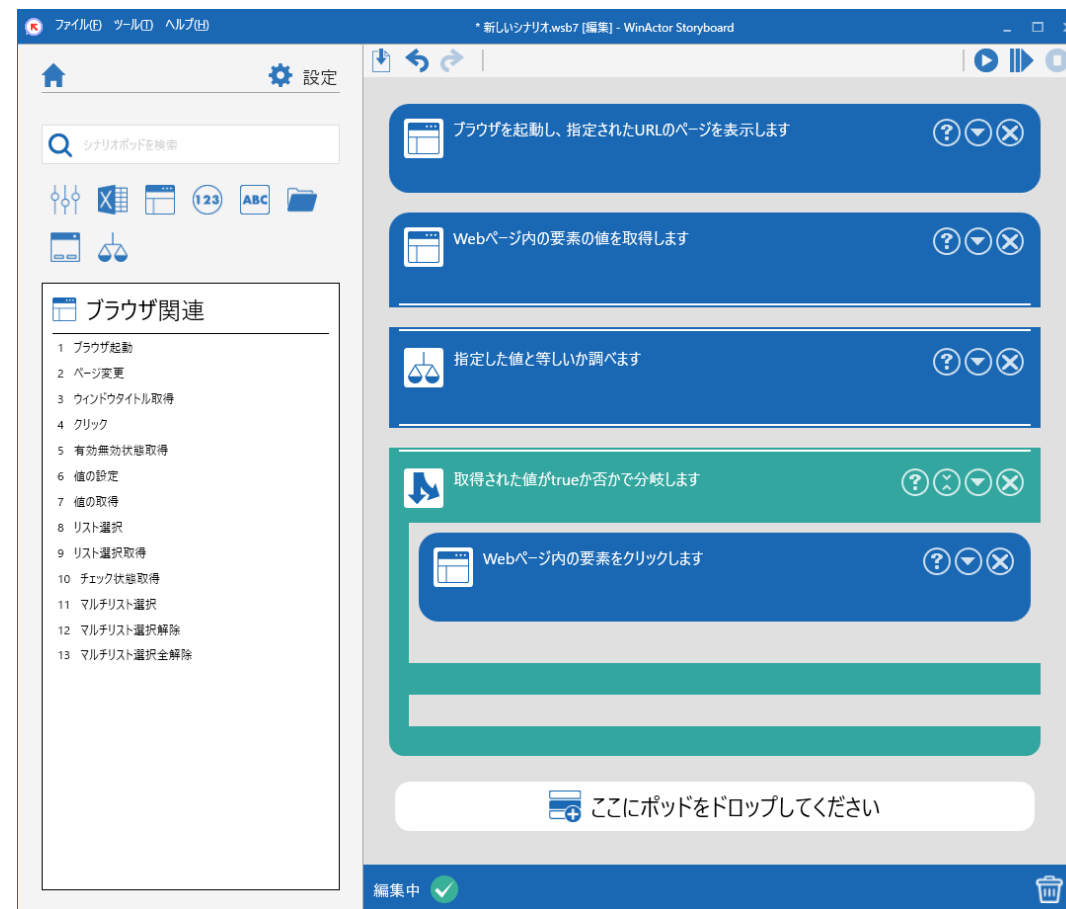
WinActor StoryboardはこれまでのWinActorのシナリオ作成を置き換えるものではなく、初心者を対象とし、**ノーコード**にてシナリオを作成することができます。

また、初心者がつまずきがちであった**変数を意識することなく**、シナリオを作成することができます。

WinActor Storyboardでは、

専用のシナリオファイル(wsb7)を編集します。

ums7ファイルをWinActor Storyboardで開くことはできませんが、保存時にWinActorと同じシナリオファイル(ums7)を選択することにより、**WinActorで編集・実行可能なシナリオ**を出力することができます。



※ インストール手順や操作方法はStoryboardの同梱マニュアルをご参照ください。

# 初心者向けエディタ (WinActor Storyboard) (2/4)

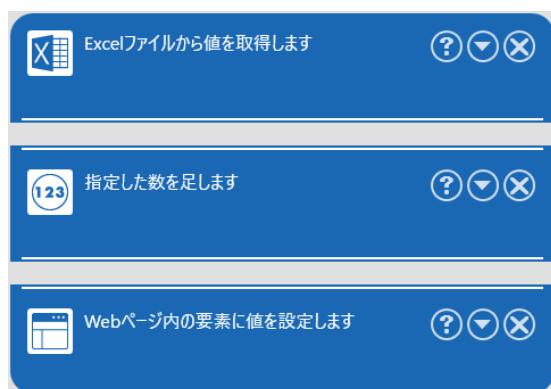
NTT-ATの5つのビジョン。



Ver.7.2.0のWinActor Storyboardでは、  
グルーピング、分岐、繰り返しを行う部品、Excelやブラウザを操作する部品、  
文字列操作や四則演算を行う部品などが提供されます。



値の取得



必要に応じ  
値の加工

値の設定

WinActor Storyboardにおけるシナリオ作成では、  
値の取得と、値の設定の部品は、  
ペアで利用することを想定しています。  
間に文字列操作や四則演算の部品を挟むことにより、  
必要に応じ値の加工を行うことができます。

# 初心者向けエディタ (WinActor Storyboard) (3/4)

NTT-ATの5つのビジョン。



WinActor Storyboardでは、シナリオ編集中、異常のある部品は赤く表示され、**ユーザにエラー箇所をわかりやすく知らせます。**



作成したシナリオはWinActor Storyboardにて実行することができます。



# 初心者向けエディタ (WinActor Storyboard) (4/4)



WinActor Storyboardでは、**フル機能版ライセンスが必要**となります。

管理ユーザ用インストーラでインストールされたWinActor NL版にて

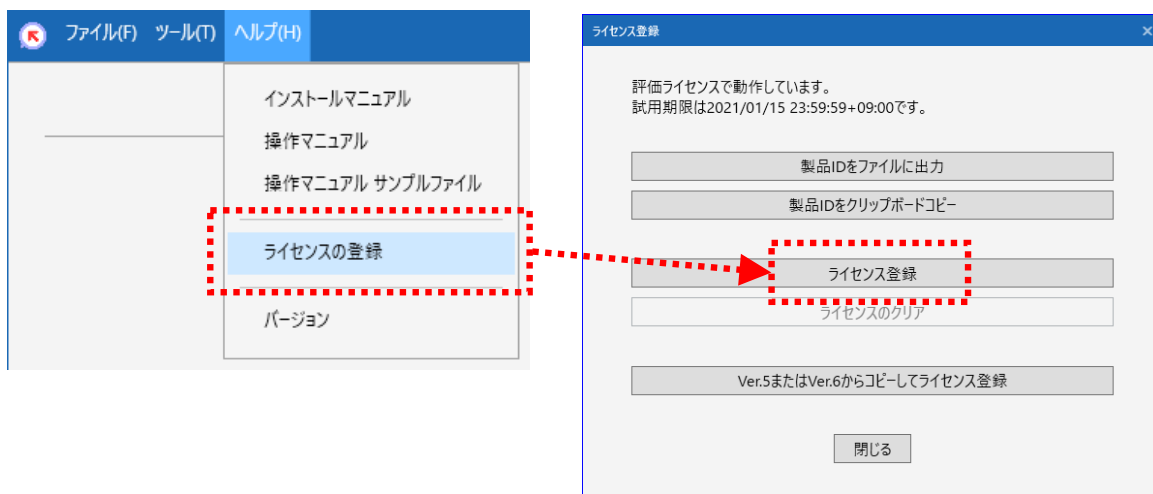
ライセンス登録済みの環境では、そのままご利用できます。

WinActor Storyboardでライセンス登録される場合には、以下の手順に従ってライセンスを登録してください。



## ◆ NL版の場合

- ① [ヘルプ(H)] メニューの「ライセンスの登録」をクリック。
- ② 「ライセンス登録ボタン」からフル機能版のライセンスファイルを選択。
- ③ WinActor Storyboardを再起動。



※ ライセンスファイルの入手方法は「WinActor インストールマニュアル」をご参照ください。

## ◆ FL版の場合

- ① 設定アイコンをクリック。
- ② 「ライセンスサーバ」の項目を設定後、OKボタンをクリック。
- ③ WinActor Storyboardを再起動。



※ WinActor Storyboard FL版ではフル機能版以外のライセンス種別は選択できません。  
※ 設定の詳細は「WinActor Storyboard 取扱説明書～基本操作編」の2-3節をご参照ください。



# UI Automationを用いた新しい自動記録モード



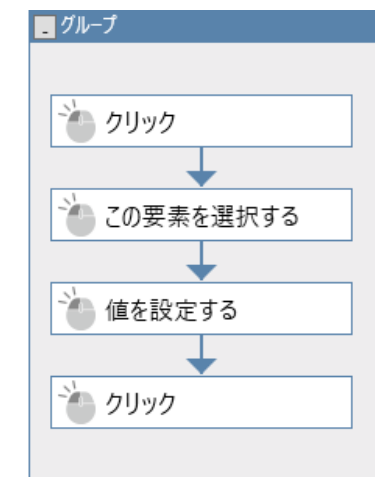
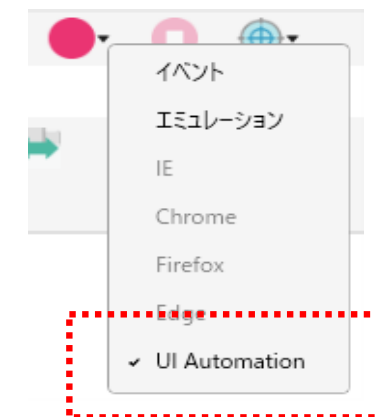
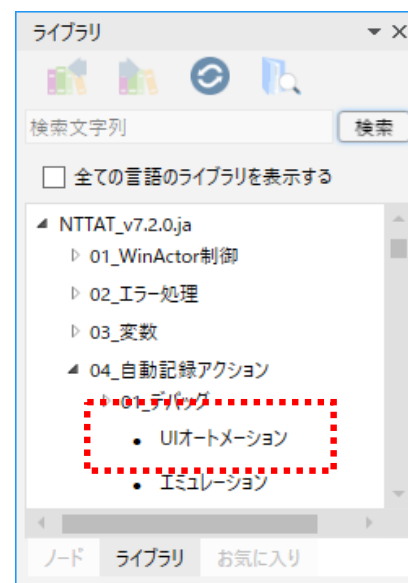
Microsoft UI Automationを利用した新しい**自動記録モード**を追加します。

今までのイベント記録モードでは指定することができず、画像マッチングノードやエミュレーションノードにて操作を行っていたようなアプリケーションの要素に対しても、新しい記録モードにより**自動的にシナリオのノードを作成することが可能になります。**

(一部対応できない要素もあります)

これまでのイベント記録モードで意図した通りに対象を認識できなかったアプリケーションに対しては、新しい記録モード「UI Automation」を指定して自動記録をご利用ください。

※ UI Automationを利用した自動記録、及び、シナリオ実行については同梱の操作マニュアル 1.7.9 節、4.9 節をご参照ください。

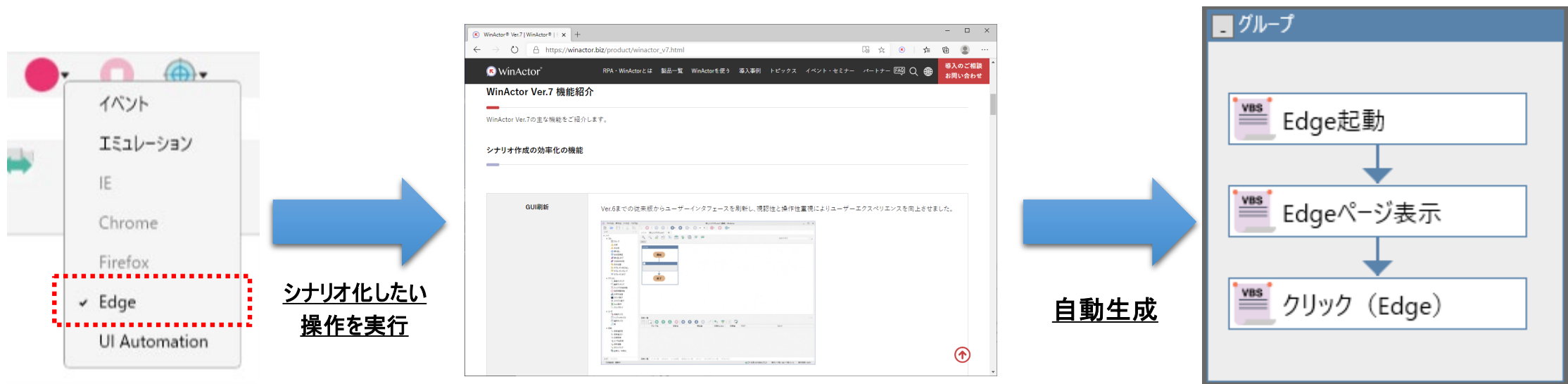




## Chromiumベースの新しいMicrosoft Edgeの 自動記録に対応します。



Internet Explorer、FireFox、Chromeと同様に、  
Chromium版Microsoft Edgeブラウザでも **自動記録によるシナリオ作成が可能**となります。



※ Chromium版Microsoft Edgeを対象とした自動記録や操作のためには事前に準備作業が必要です。  
準備作業の詳細は同梱のChrome拡張機能インストールマニュアル 3章、ブラウザ操作シナリオ作成マニュアル 4.2節をご参照ください。

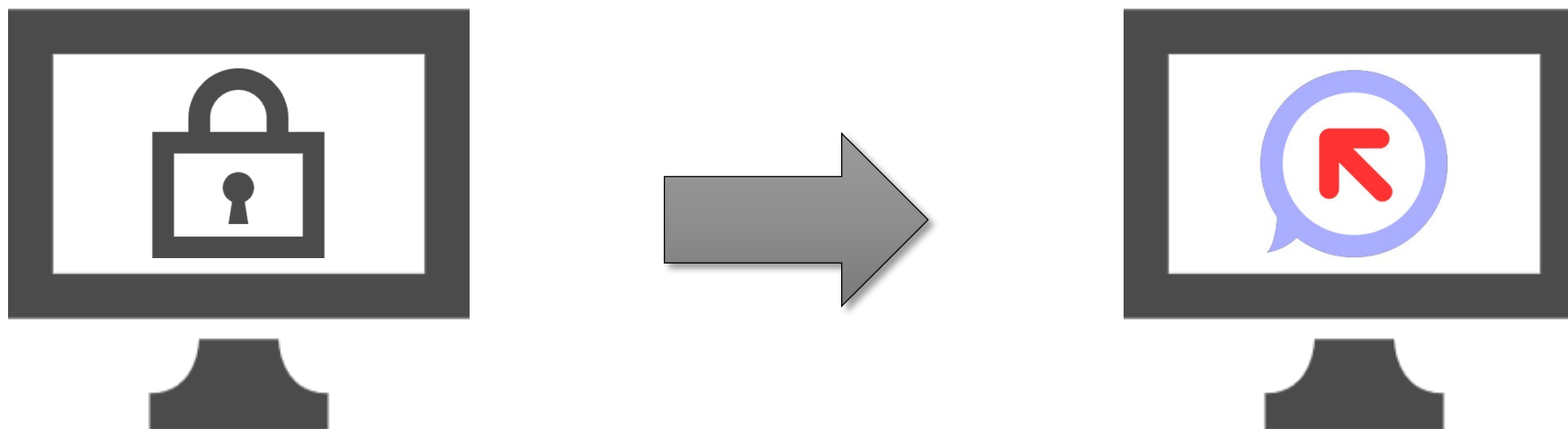
# スクリーンセーバー解除機能(1/2)



スクリーンセーバーによるシナリオ実行の失敗を防ぐための  
**スクリーンセーバー解除機能**を提供します。



シナリオ実行中に長時間の待機が発生する場合や、ユーザの居ない深夜時間帯にシナリオ実行させる場合に、  
**自動的にスクリーンセーバーを解除してシナリオを実行**させることができます。  
また、**シナリオ実行中はスクリーンセーバーが起動しない**よう設定することもできます。



※ スクリーンセーバー解除機能を利用するために事前設定が必要です。  
詳細は次ページ「スクリーンセーバー解除機能(2/2)」をご参照ください。

# スクリーンセーバー解除機能(2/2)



スクリーンセーバー解除機能を利用するためには以下の事前設定が必要です。



## ①ドライバインストール(要管理者権限)

WinActorインストール先に配置されている以下のファイルを管理者権限で実行してください。

64bit環境の場合:

drivers¥virtualhid¥x64¥installdriver.exe

32bit環境の場合:

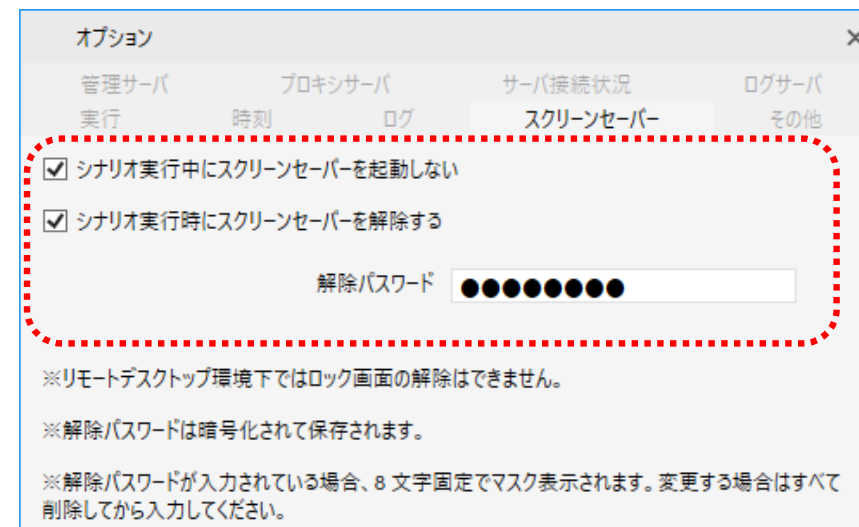
drivers¥virtualhid¥x86¥installdriver.exe

※管理者権限での実行を確認するダイアログが表示されますので、必要に応じてアカウント情報を入力後に「はい」ボタンを押下してください。

※アンインストールしたい場合は同フォルダの「removedriver.exe」を実行してください。

## ②オプション画面での設定

WinActor起動後、[ツール]-[オプション]画面を起動し、[スクリーンセーバー]タブより設定してください。



※ 管理者版インストーラでドライバインストールした場合、事前設定①の実施は不要です。

※ 上記設定手順の詳細は同梱のインストールマニュアル 1.5節、操作マニュアル 1.17節をご参照ください。

# WinActorノート及びWinActor Eyeの非Java化

NTT-ATの5つのビジョン。

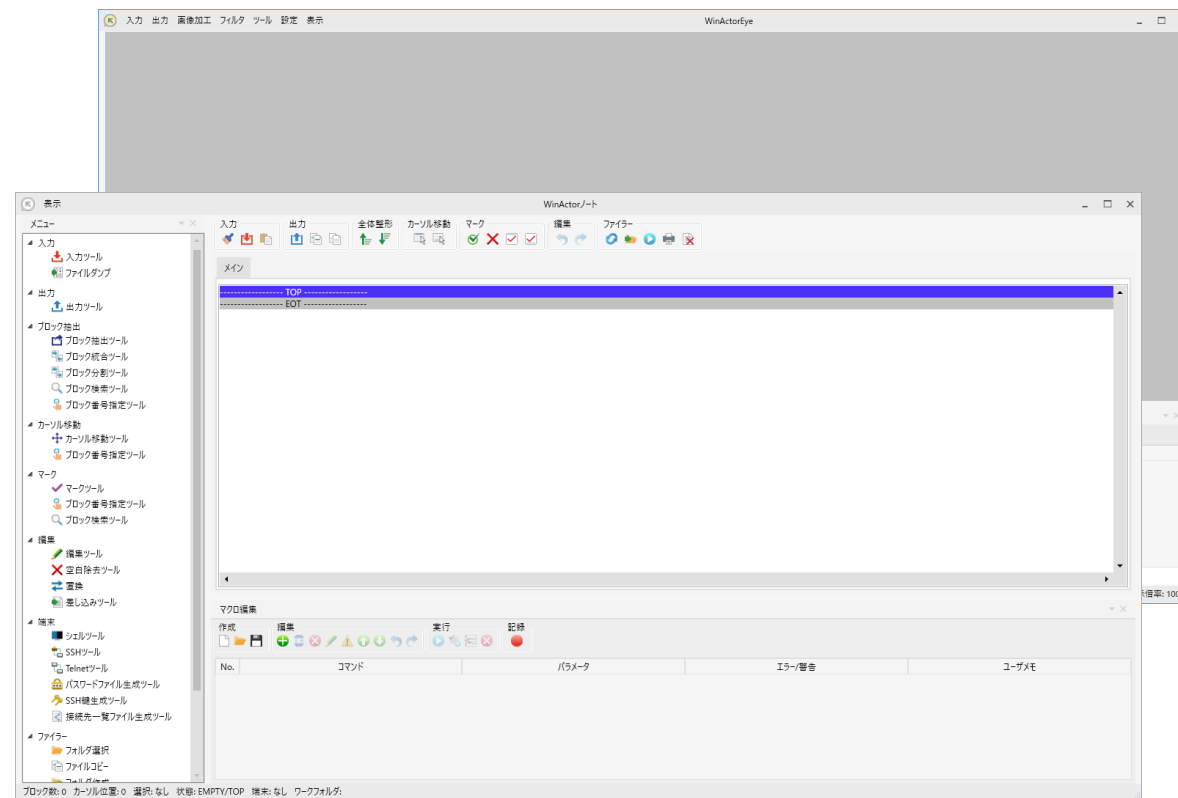


WinActor本体と同様に**非Java化したWinActorノート、WinActor Eye**を提供します。



新しいWinActorノート、WinActor EyeではWinActor本体に合わせてGUIを刷新し、**使いたい機能や情報に、よりアクセスしやすい画面構成**としています。

また、これまではWinActorノート、WinActor Eyeを利用する際には同一PCにVer.6.3.0をインストールし、オプション画面でVer.6.3.0のインストール先を設定していただく必要がありましたが、この制約がなくなります。



※ WinActorノート、WinActor Eyeのそれぞれの新規機能及び変更点については「WinActorNote\_v720\_releasenote」及び「WinActorEye\_v720\_releasenote」をご参照ください。

※ オプション画面の「その他」タブの「Ver.6のインストールパス」項目はVer.7.2.0から削除しています。

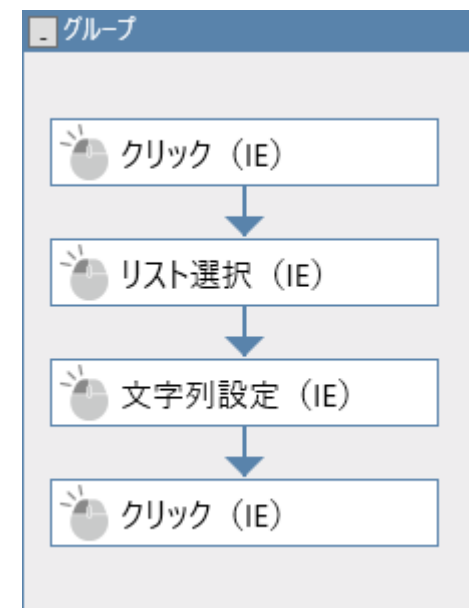
# IE操作機能の実行速度の改善(1/2)



Ver.7.1.1 までは一部の条件下でIE操作を行うノードの実行速度がVer.6より遅くなっていましたが、  
Ver.7.2.0 では、**IE操作機能の実行速度の改善**を行いました。



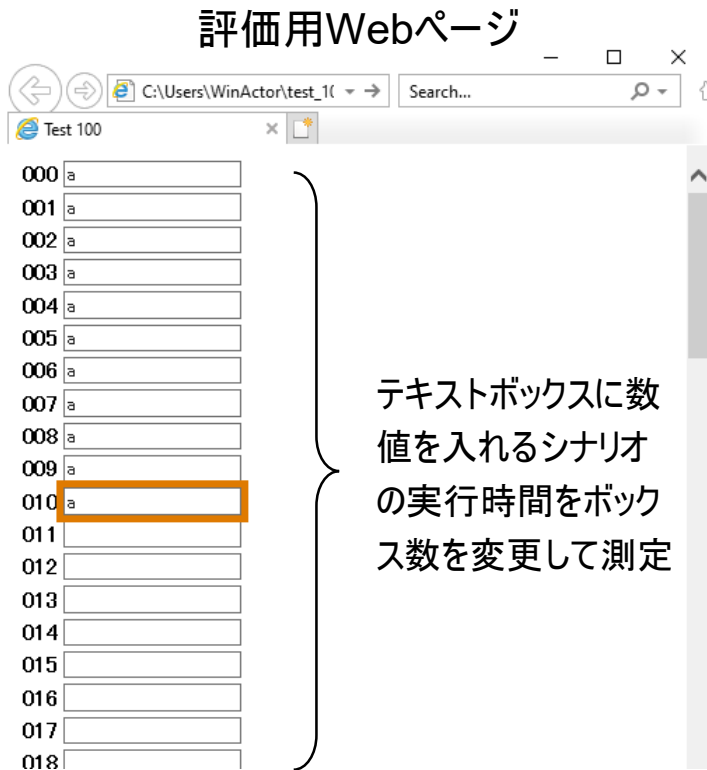
Ver.7 ではIE操作機能のロジックを見直すことで、  
**安定性を向上**させ、ユーザの意図した操作を  
より正しく実行できるようにしました。  
一方で、要素数の多いWeb画面を操作する際には  
Ver.6 と比べて実行速度が遅くなることもありましたが、  
Ver.7.2.0 では**ロジックの高速化**を行い、  
Ver.6 と同等以上の速度でIE操作を行えるようになりました。



# IE操作機能の実行速度の改善(2/2)



Ver.6.3.0、Ver.7.1.0、Ver.7.2.0のそれぞれでIE操作の実行速度を計測し、**Ver.6.3.0と比較して最大で約2倍、Ver.7.1.0と比較して最大で約2.5倍の速度改善を確認しました。**



## 評価用Webページの内容:

- 2列 × N行の表を含む。
- すべての行の2列目に、テキストボックス(<input type="text">)を含む。

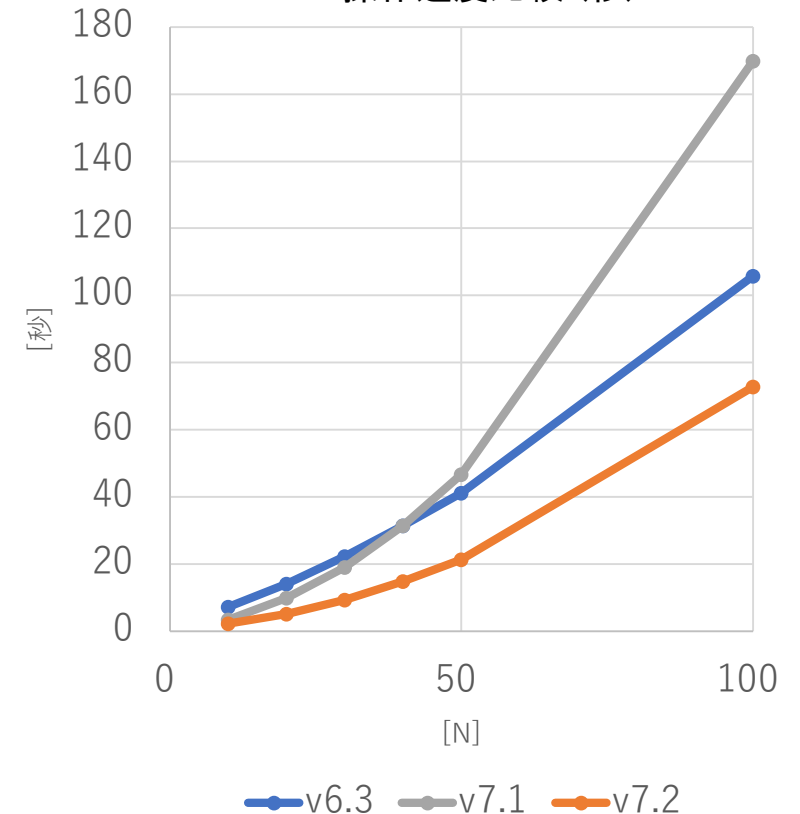
## 実行シナリオ:

- ループ処理を用いて、N個のテキストボックスに対して固定テキストを設定する。

## 計測方法:

- 検証環境でNを変更してシナリオを3回実行し平均値を計算する。

IE操作速度比較 (秒)



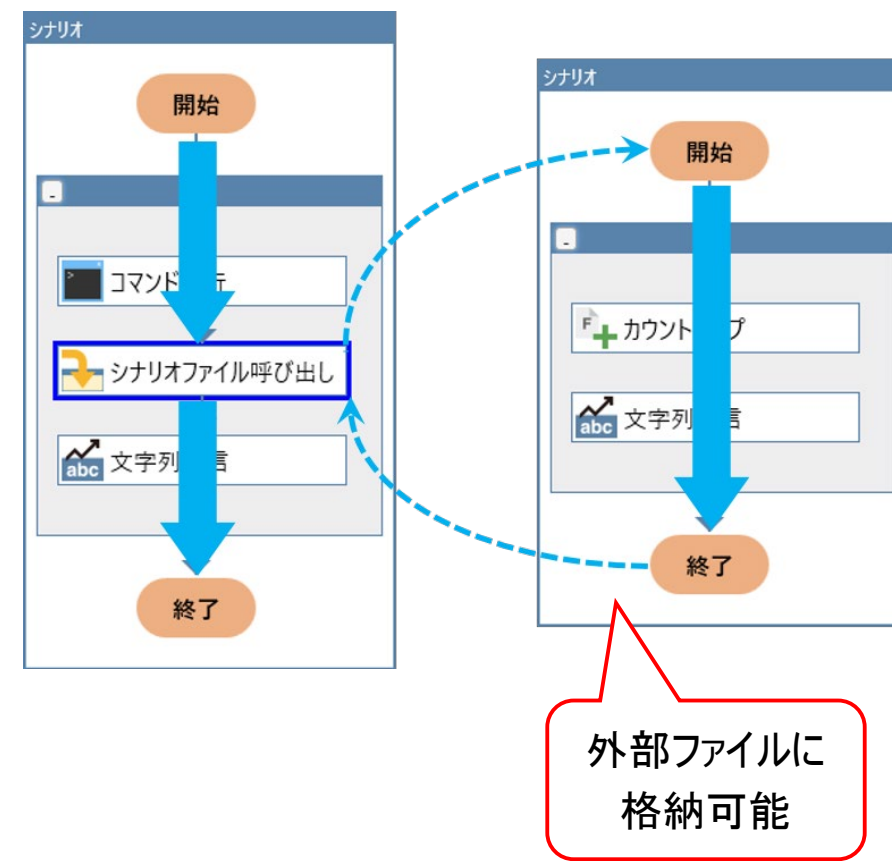


# シナリオファイル呼び出し機能

シナリオファイルから別のシナリオファイルを読み出し、シナリオ実行を行うことが可能となります。

シナリオの部品化と複数シナリオからの共有が可能となります。

ライブラリを利用すると、ライブラリの内容がシナリオファイルの中に取り込まれ、シナリオファイルと一緒に配布することや、高速に動作させることができますが、ライブラリの修正が必要となった際、このライブラリの内容を取り込んでいる全てのシナリオファイルを修正する必要がありました。本機能を利用し共通処理を外部のシナリオファイルとして、複数シナリオから共有すると、修正が必要となった場合に、その外部のシナリオファイルのみを修正すれば良く、全てのシナリオファイルを修正する必要がなくなります。



※ シナリオファイル呼び出し機能の利用方法については同梱の操作マニュアル 4.2.3節、4.3.12節、4.3.13節をご参照ください。





# 呼び出し履歴の表示機能

シナリオの一時停止中に、サブルーチンやシナリオファイルの呼び出し履歴を確認することが可能となる呼び出し履歴画面を提供します。



シナリオが一時停止状態の場合に、その時点で呼び出しているシナリオファイルやサブルーチンの一覧を表示します。

また、一覧中の行をダブルクリックすることで、その行の呼び出し場所にフォーカスし、変数一覧なども呼び出し時点の情報を確認できます。

複数のシナリオファイルやサブルーチンを使用する複雑なシナリオを運用する際に、

本画面からそれぞれの呼び出しノードの場所や、呼び出し時点の変数の値等を確認することができ、シナリオの改善に役立てることができます。

The screenshot displays the WinActor interface with a flowchart on the left and a call history table on the right. The flowchart shows a sequence of steps: '開始' (Start) -> '待機ボックス' (Wait box) -> 'サブルーチン呼び出し' (Subroutine call) -> '終了' (End). The right-hand flowchart shows a '分岐' (Branch) node leading to 'True' (四則演算) and 'False' (待機ボックス) paths, with 'シナリオファイル呼び出し' (Scenario file call) highlighted in the True path.

シナリオファイル	シナリオ/サブルーチン	ノードID	名前
シナリオ2.ums7	シナリオ	18	サブルーチン1
シナリオ2.ums7	シナリオ	22	サブルーチン呼び出し
シナリオ2.ums7	サブルーチン1	7	シナリオファイル呼び出し
シナリオ2.ums7	シナリオ	22	サブルーチン呼び出し
シナリオ2.ums7	サブルーチン1	7	シナリオファイル呼び出し
シナリオ2.ums7	シナリオ	22	サブルーチン呼び出し
シナリオ2.ums7	サブルーチン1	7	シナリオファイル呼び出し
シナリオ1.ums7	シナリオ	7	シナリオファイル呼び出し

変数一覧

グループ名	変数名	現在値	初期化しない	初期値	マスク
グループなし	test	0	<input type="checkbox"/>	1	<input type="checkbox"/>

フル機能版 一時停止中



## シナリオ実行時間の詳細な内訳を確認できる



## 実行時間表示機能を提供します。

シナリオを実行した後に、実行時間画面にて、各ノードの実行回数、経過時間、平均時間、子ノード含む経過時間、子ノード含む平均時間を確認でき、シナリオ実行時間のボトルネック等を調査することが可能になります。

The screenshot displays the WinActor interface. On the left, a scenario flowchart shows a sequence: 開始 (Start) -> 待機ボックス (Wait Box) -> サブルーチン呼び出し (Subroutine Call) -> 終了 (End). On the right, a detailed view of a subroutine (サブルーチン1) shows a flowchart with a 分岐 (Branch) node. The 'True' path leads to 四則演算 (Arithmetic) and シナリオファイル呼び出し (Scenario File Call). The 'False' path leads to another 待機ボックス (Wait Box).

ノードID	ノード種別	ノード名	実行回数	経過時間	平均時間	経過時間 (子ノード含む)	平均時間 (子ノード含む)
1	メイン		4	0.072	0.018	778.199	194.54975
16	待機ボックス	待機ボックス	4	7.001	1.75025	7.001	1.75025
8	分岐	分岐グループ	4	0.104	0.026	586.952	146.738
15	四則演算	四則演算	3	0.042	0.014	0.042	0.014
7	シナリオファイル呼び出し	シナリオファイル呼び出し	3	0.045	0.015	581.16	193.72
17	待機ボックス	待機ボックス	1	5.646	5.646	5.646	5.646
18	サブルーチン	サブルーチン1	4	184.103	46.02575	771.055	192.76375
22	サブルーチン呼び出し	サブルーチン呼び出し	4	0.057	0.01425	771.126	192.7815

実行時間

変数一覧 データ一覧 ログ出力 メール管理 監視ルール一覧 イメージ ブレイクポイント一覧 サブルーチン 呼び出し履歴 実行時間

フル機能版 編集 中 ID: 17 種別: 待機ボックス 名前: 待機ボックス コメント: エラーは見つかりませんでした 表示ノード数 / 全ノード数: 7 / 7 表示倍率: 100%

# 付箋の表示／非表示切り替え機能



右クリックのコンテキストメニューから

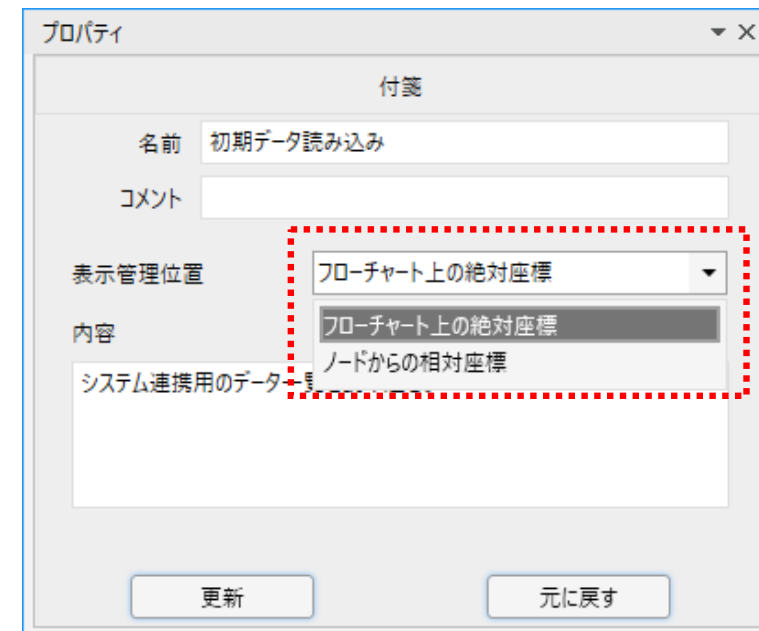
**付箋の表示・非表示を切り替える**ことが可能になります。



**必要な時にだけ付箋を表示**できるようになり、  
他のノード等に付箋が重なって見づらくなる問題が解消されます。

また、これまで付箋はフローチャート中の絶対座標にて  
配置されていましたが、ノードからの相対位置で  
配置することが可能になります。

これにより、**対象のノードを移動させると追従して付箋を動かす**ことが  
出来るようになり、付箋をより扱いやすくなります。



初期データ読み込み  
システム連携用のデータ一覧を読み込む。

X Excel Operation



X Excel Operation

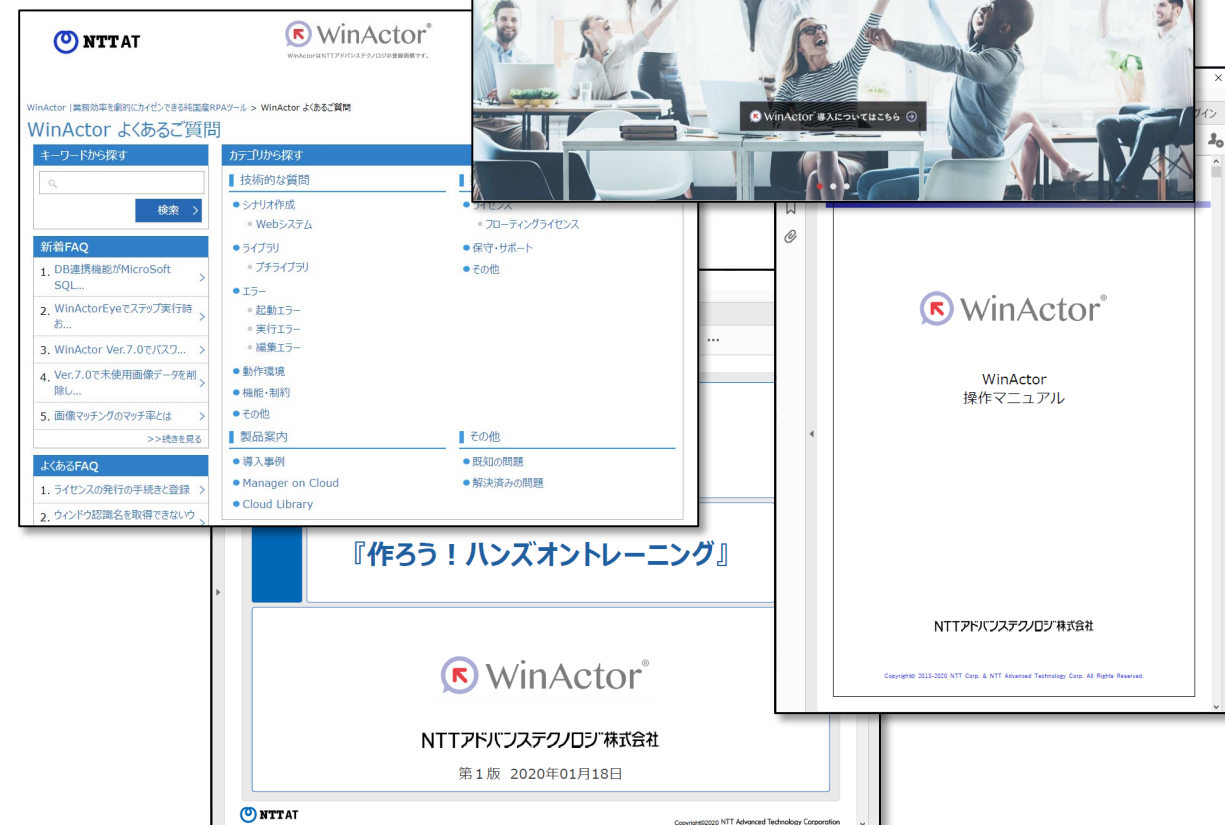
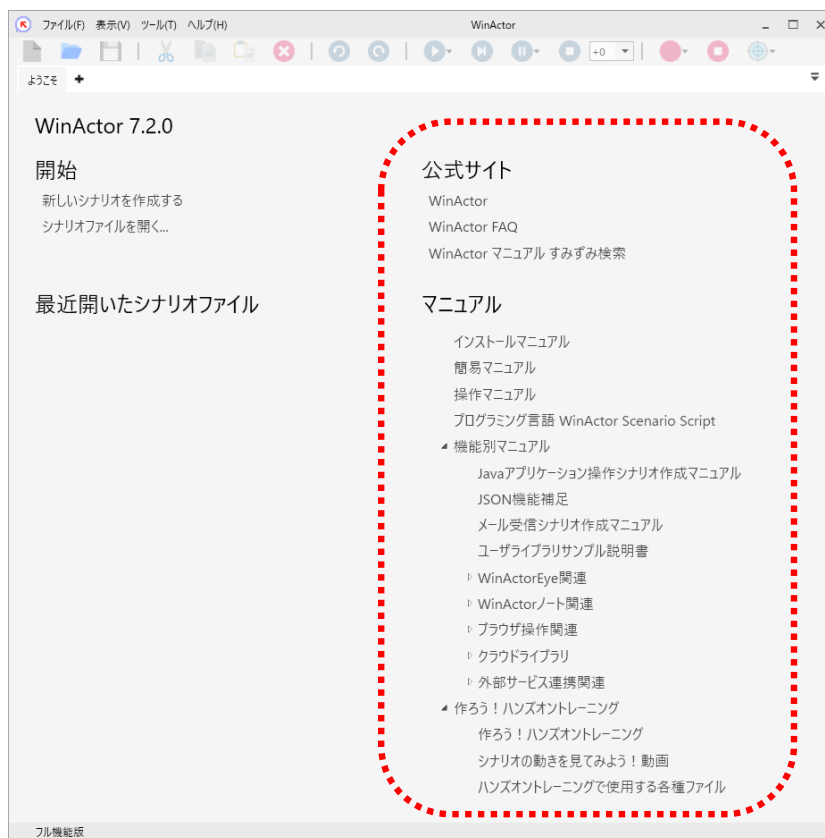
# ようこそ画面へのリンク追加



WinActor起動時のようこそ画面に、FAQサイトや、マニュアルを開くことのできるリンクを追加しました。



日本語表示ではユーザーに馴染みのある旧来のマニュアル名で参照できます。



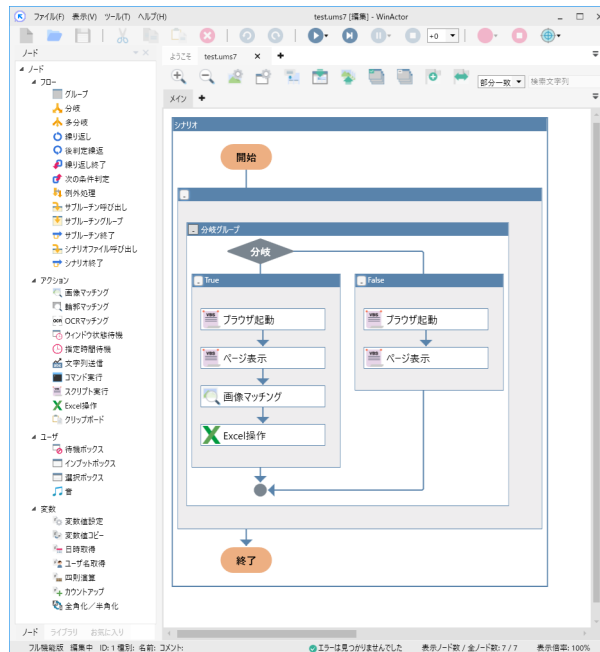
# フォントサイズ変更機能



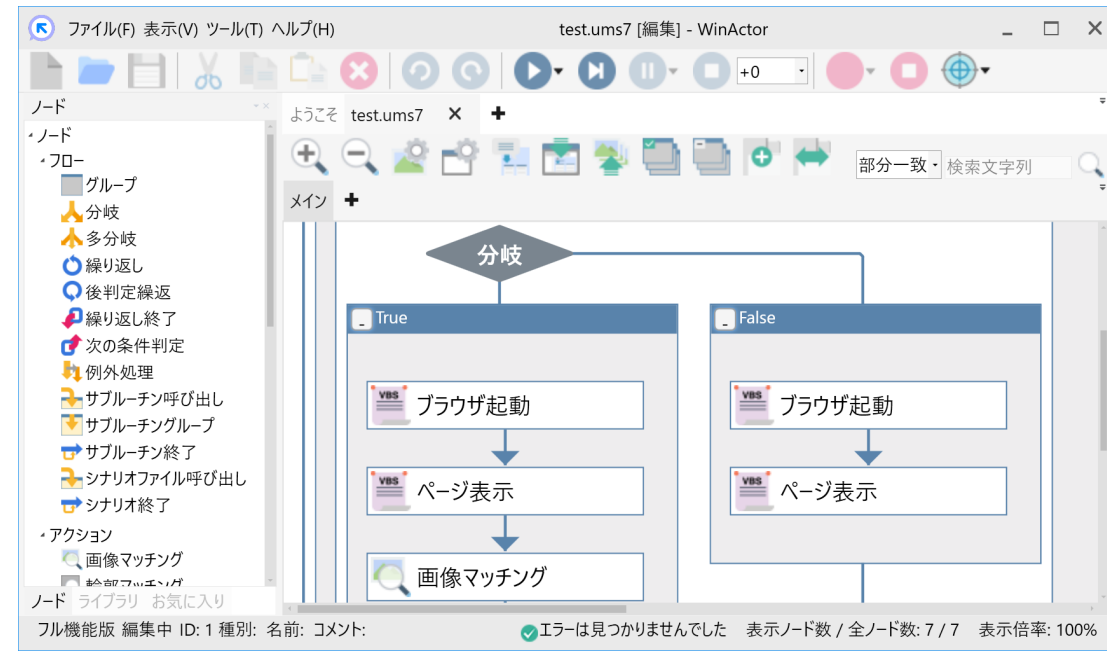
オプション画面から**WinActor内のフォントサイズを変更**することが可能になります。



ご利用のディスプレイに合った**見やすいフォントサイズ**でシナリオの**編集**や**実行**が行えるようになります。



フォントサイズ【12】



フォントサイズ【27】

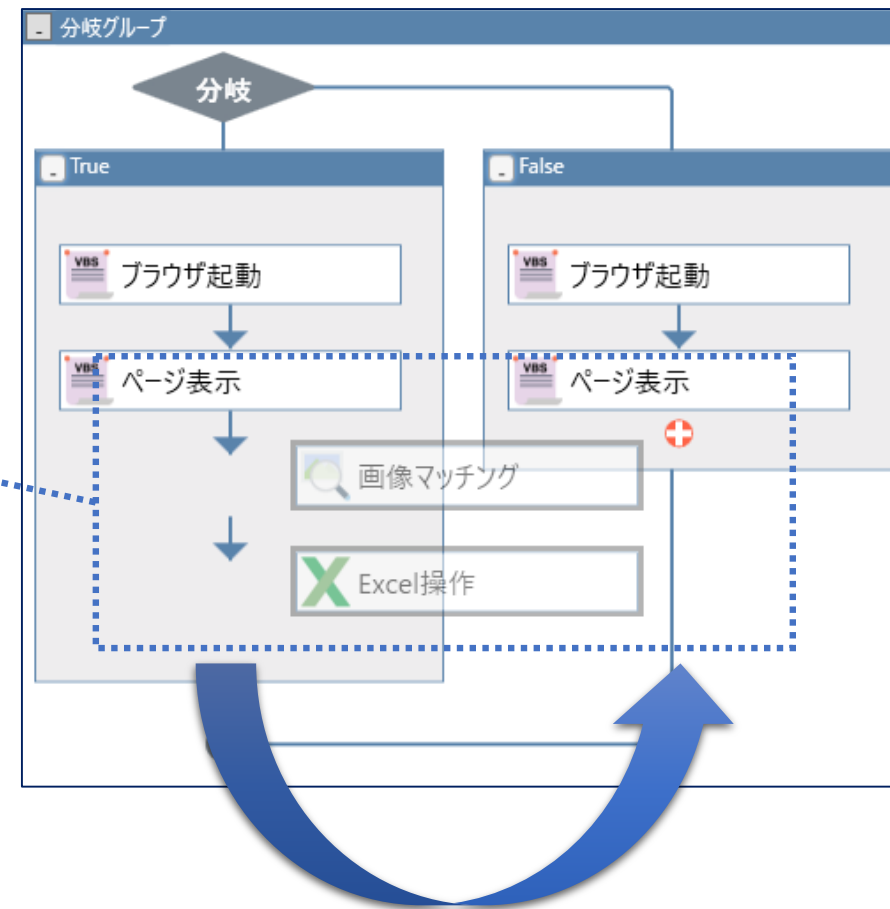
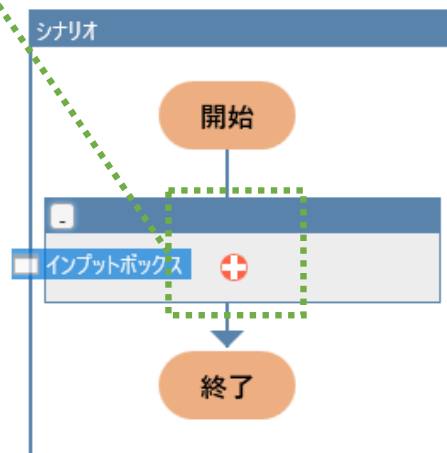


# フローチャート画面の操作性改善

シナリオの編集をより行いやすくするため、  
フローチャート画面の操作性を改善しました。

意図しない場所にノード配置してしまう操作ミスを削減できるよう、  
ツリーからのノード追加時やフローチャート内のノード移動時に  
**挿入箇所をアイコンで強調表示**するようにしました。

また、シナリオ編集時の手間を減らすため、移動元の順番を  
維持したまま**複数ノードをまとめてフローチャート内に移動**  
できるようにしました。



# OCRマッチングのテスト結果表示機能

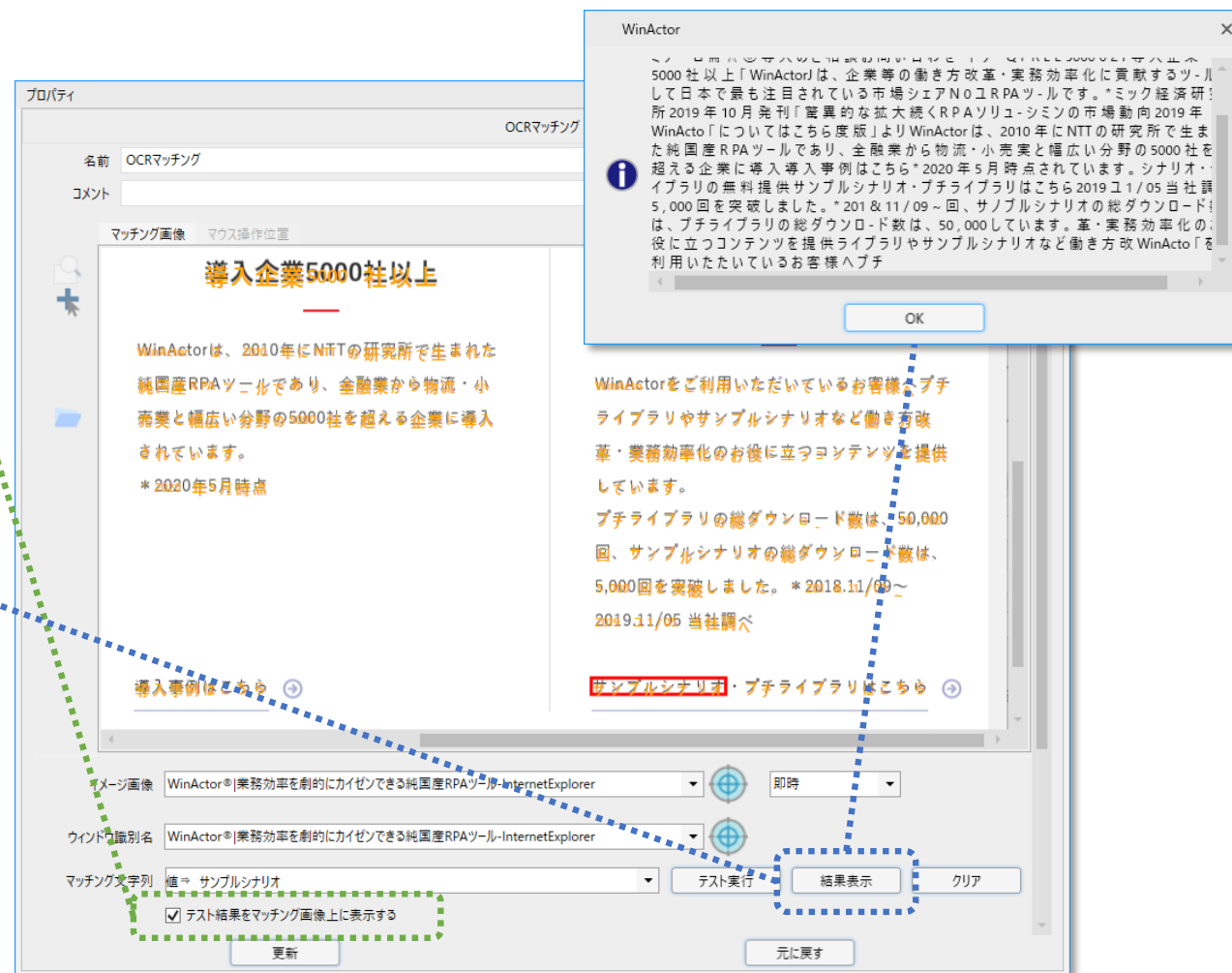


OCRマッチングノードにてテスト実行の結果表示機能を提供します。

OCRによって検出している文字を分かりやすく確認でき、マッチング文字列の調整を行いやすくなります。

「テスト結果をマッチング画像上に表示する」をチェックすることで、テスト実行により抽出された文字が重ね合わせて表示されます。

また、テスト実行後に「結果表示」ボタンを押下することで、検出した全ての文字がダイアログに表示されます。漢字の口(くち)やカタカナの口(ろ)のように検出した文字の区別が付けにくい場合、コピー&ペーストでのマッチング文字列設定にご利用ください。





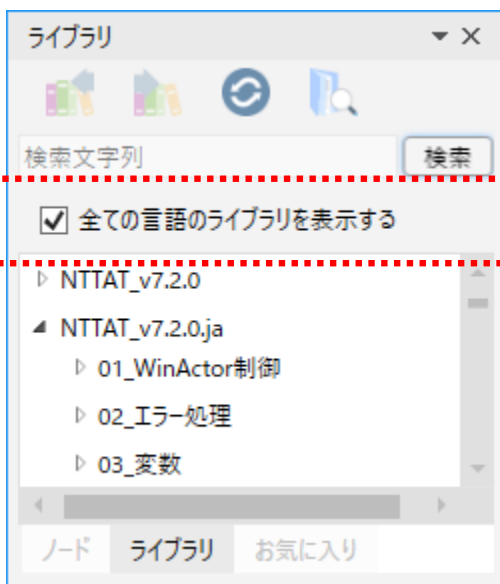
# ライブラリ表示の絞り込み

ライブラリパレットに表示する内容を

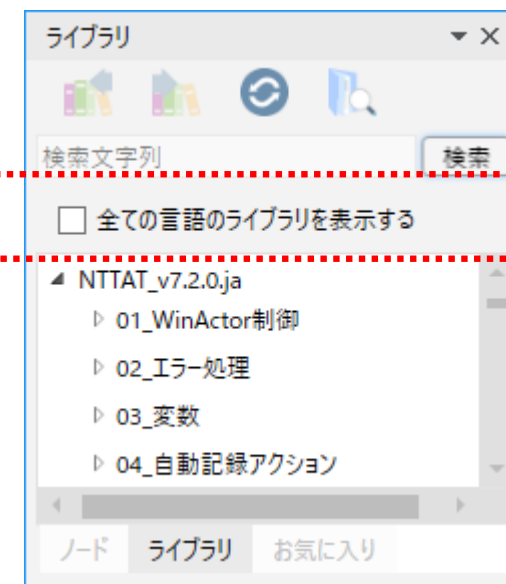
**現在の言語設定のものに限定**する機能を提供します。



ライブラリの検索時には、**表示されているライブラリの中から検索**を行います。  
また、チェックボックスの状態はWinActor終了時に保存され、  
次回起動時に自動的に復元します。



英語と日本語の  
ライブラリが表示  
されている。



日本語のライブラ  
リしか表示されて  
いない。





WinActor Ver.7.2.0にて提供する新機能に関連する注意を記載します。

- ① 初心者向けエディタ(WinActor Storyboard)はWinActor本体とは異なるインストール先フォルダがデフォルトで設定されています。これを変更してWinActor本体と同じフォルダにインストールすると WinActor が正しく動作しなくなります。
- ② WinActor StoryboardとWinActor Ver.7は同時に起動できません。
- ③ 既存のシナリオで、ブラウザ関連のユーザライブラリにてブラウザ種類として「edge」を選択していた場合、旧Edge(Microsoft Edge(EdgeHTML))がインストールされている環境ではシナリオ実行に失敗してしまいます。そのような環境では、ユーザライブラリのプロパティ画面からブラウザ種類を「edge\_legacy」に変更してください。
- ④ スクリーンセーバー解除機能はリモートデスクトップ経由でWinActorを動作させている環境では利用できません。
- ⑤ OCRマッチングのテスト実行失敗を防ぐため、OCRマッチングノードのみオプション画面の[記録]タブの画像サイズ設定に関わらず100%でイメージ画像を保存するよう変更しています。OCRマッチングノードを含むシナリオファイルのサイズを小さくしたい場合は、オプション画面の[記録]タブから「画像キャプチャをする」のチェックを外すか、または、イメージタブ画面より個別のイメージ画像削除をご検討ください。



WinActor Ver.7.2.0にて提供する新機能に関連する注意を記載します。

- ⑥ 以下の画面の初期表示位置をWinActor画面中央から、画面左上部が見切れない位置に変更しました。  
起動ショートカット作成、プラグイン設定、ZIPエンコーディングツール、オンラインシナリオ管理、オプション
- ⑦ Ver.7.2.0を起動後、同一ユーザにてVer.7.0.1、Ver.7.0.2、Ver.7.1.0、Ver.7.1.1を起動しますとWinActorのレイアウト表示に乱れが発生します。乱れが発生した際には、[表示]メニューの「初期レイアウトを復元」を選択してください。



# 評価期間のリセット

Ver.7.2.0のNL版では、過去のバージョンのWinActorの評価期間が終わっている場合、評価期間をリセットし、**改めてWinActorを評価いただける**ようになります。

製品ライセンスが既に有効である場合には、そのまま製品ライセンスの下でVer.7.2.0NL版は動作します。

評価期間のリセットの際には製品IDが変更されますので、

**製品ライセンスの発行依頼中にはVer.7.2.0へのアップデートは行わないでください。**

また、製品ID変更時に起動パスワードが解除されますので、Ver.7のWinActorへ起動パスワードを設定されていた場合には、**Ver.7.2.0インストール後に起動パスワードの再設定**をしてください。

また、管理ユーザ用インストーラにてインストールされたVer.5またはVer.6のWinActorに起動パスワードが設定されている場合、評価期間のリセットは行われません。**Ver.5またはVer.6のWinActorの起動パスワードを解除してから**Ver.7.2.0のWinActorを起動し、評価期間をリセットし、その後、Ver.5またはVer.6のWinActorの起動パスワードの再設定をしてください。

Ver.7.2.0NL版のWinActorの評価期間が終了した後に、Ver.7.2.0NL版やVer.7.2.1NL版を再インストールしても評価期間のリセットは行われません。Ver.7.3.0NL版がリリースされた際には、Ver.7.2.xNL版のWinActorの評価期間のリセットを可能とする予定です。



# 互換性に関する修正

Ver.7.2.0では互換性に関する以下の修正を行っています。

これらは WinActor Ver.6 との互換性を向上させるためのものですが、その結果としてWinActor Ver.7.0.1, Ver.7.0.2, Ver.7.1.0, Ver.7.1.1 と動作が異なってしまいました。そのため Ver.7.0.1, Ver.7.0.2, Ver.7.1.0, Ver.7.1.1 の**動作にあわせたシナリオが動作しなくなる**場合があります。

- ① ユーザライブラリ「13\_02\_ファイルエンコーディング指定」にて、Ver.7にて使用できないエンコーディング名を指定された際のエンコーディングをShift-JISからUTF-8に変更しました。
- ② ユーザライブラリ「03\_01\_csvファイル→変数値」にて、同名変数が複数行記載されていた場合、Ver.7.1.1までは最初に記載された値を反映していましたが、最後に記載された値を反映するよう変更しました。

# Microsoft Office 2010 サポート終了に伴う変更

NTT-ATの5つのビジョン。



2020年10月13日の Microsoft Office 2010 の延長サポート終了に伴い、WinActorでは Microsoft Office 2010 をサポート対象から除外します。

また、DB連携で Microsoft Office Access に接続する際に使用する Access ODBC ドライバーのインストール方法を見直しています。  
詳細はWinActor同梱の操作マニュアル 6.10節をご参照ください。



# ドキュメントファイルの配置場所変更について

WinActor Ver.7.2.0 から、「WinActor Brain Cloud Library エージェント利用マニュアル」の配置場所を以下の通り変更します。

ようこそ画面の右側のマニュアルリンクからも参照できますので、必要に応じてご利用ください。

	旧配置場所	新配置場所
日本語	WinActorBrain_Documents¥WinActorBrain_CloudLibrary_Agent_UserManual_jp.pdf	WinActor_Documents¥Japanese¥Manual_by_Function¥CloudLibrary¥WinActorBrain_CloudLibrary_Agent_UserManual.pdf
英語	WinActorBrain_Documents¥WinActorBrain_CloudLibrary_Agent_UserManual_en.pdf	WinActor_Documents¥English¥Manual_by_Function¥CloudLibrary¥WinActorBrain_CloudLibrary_Agent_UserManual.pdf



# 改善、要望の一覧について

Ver.7.2.0にて行いました改善の一覧(58件)は  
「WinActor\_v720\_upgrades\_20210113.pdf」  
に記載します。

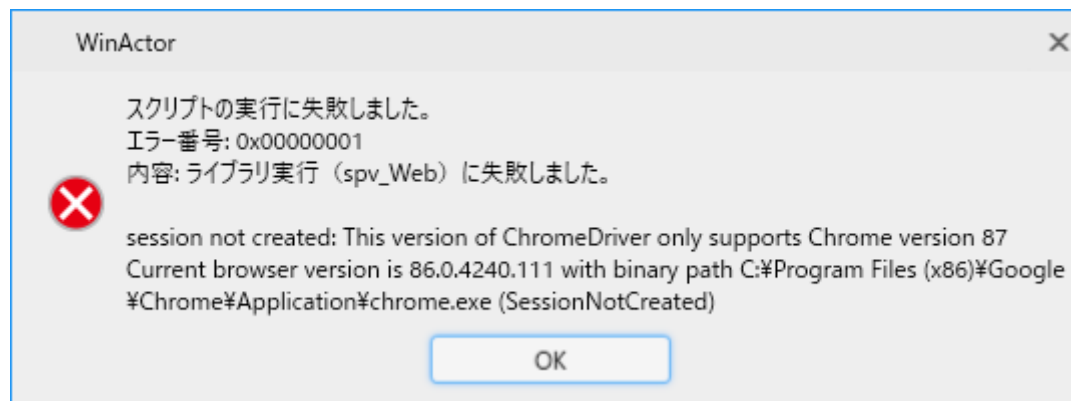
Ver.7.2.0にて対応を行いました要望の一覧(12件)は  
「WinActor\_v720\_requests\_20210113.pdf」  
に記載します。

また、上記改善一覧とは別に、WinActorで表示するメッセージをより分かりやすくするため見直しています。

# Ver.7.2.0に関する想定質問と回答 (1/2)



項番	カテゴリ	質問	回答
1	ライブラリ	Ver.7.2.0にて「23_ブラウザ関連」カテゴリのライブラリを含むシナリオを実行すると、以下のダイアログが表示される。	<p>Ver.7.2.0ではGoogleChromeの操作に利用するドライバのバージョンを更新しました。これにより、古いGoogleChromeを利用されている環境ではシナリオ実行時にエラーとなることがあります。このエラーが表示された場合は、ご利用のGoogleChromeのバージョンに合わせたドライバを導入いただけますようお願いします。</p> <p>(ドライバ導入手順記載マニュアル) ブラウザ操作シナリオ作成マニュアル 4.1節 (関連Q&amp;A) Chromeブラウザでの「ブラウザ起動」ライブラリの実行に失敗する <a href="http://www.matchcontact.net/winactor_jp/faq.asp?faqno=JPN00425&amp;slugtype=0&amp;logid=760572057">http://www.matchcontact.net/winactor_jp/faq.asp?faqno=JPN00425&amp;slugtype=0&amp;logid=760572057</a></p>

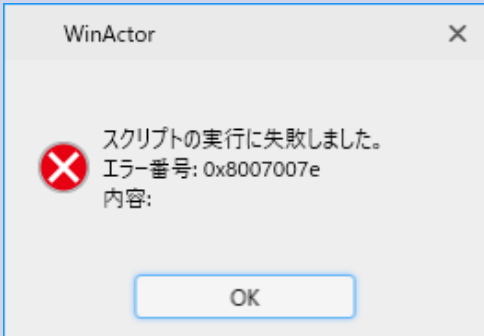
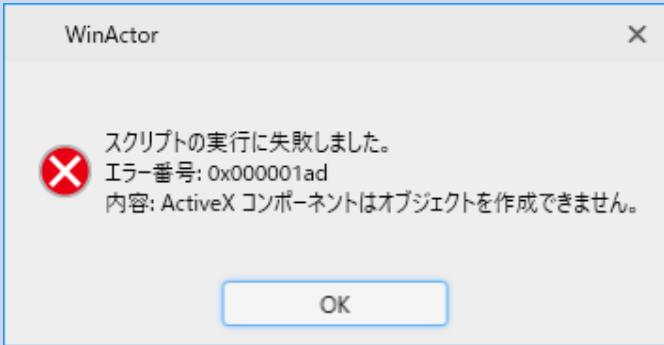


※ エラーダイアログの中のバージョン情報やファイルパスは環境により異なります。



# Ver.7.2.0に関する想定質問と回答 (2/2)



項番	カテゴリ	質問	回答
2	ライブラリ	<p>Ver.7.2.0に同梱されているユーザライブラリの内、ファイルパスを指定するものを実行すると、以下のダイアログが表示される。</p>  	<p>Ver.7.2.0の管理者版と標準ユーザ版のインストーラを同時に利用いただいている環境、または、WinActorとStoryboard(ともに管理者版)を同時に利用いただいている環境にて、片方のみアンインストール(削除)した場合に、ライブラリ実行時にエラーとなることがあります。それぞれ以下の対処を実施してください。</p> <p><b>【管理者版と標準ユーザ版を同時に利用していた場合】</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>①[手元にインストーラが無い場合のみ] Ver.7.2.0の標準ユーザ版インストーラをダウンロードし、任意の場所に解凍する。</li><li>②コマンドプロンプトを起動し、WinActorインストーラが存在するフォルダへ移動する。</li></ol> <p>例) &gt; cd C:\Users\winactor\Desktop\WinActor_v720\WinActor_Installer</p> <ol style="list-style-type: none"><li>③DLL関連付け解除オプションを付けてインストーラを実行する。 インストーラ名に「/DELDLLASSOC」オプションを付けて実行することで、エラーの原因となっている登録情報を解除できます。</li></ol> <p>例) &gt; WinActorSetup_NoPrivileges.exe /DELDLLASSOC</p> <p>言語選択ダイアログにてOKボタンをクリック後、解除に成功したことを示すダイアログが表示されます。</p> <p><b>【WinActorとStoryboardを同時に利用していた場合】</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>①[手元にインストーラが無い場合のみ] Ver.7.2.0の管理者版インストーラをダウンロードし、任意の場所に解凍する。 Storyboardを継続利用する場合はVer.1.0.0のStoryboardインストーラ(管理者版)をダウンロードしてください。</li><li>②インストーラを実行し、上書きインストールする。</li></ol>



## 制約事項

# Ver.7.2.0の制約事項（Ver.7.2.1で解消予定）



WinActor Ver.7.2.0には以下の制約があります。  
これはVer.7.2.1にて解消される予定です。

- ① ディスプレイの表示スケール設定(※)を「100%」以外に設定している場合、ノードをフローチャート上に挿入する際に、強調表示されている位置からずれることがあります。



※ Windowsの設定画面より、[ システム ] – [ ディスプレイ ] を選択後に表示される「拡大縮小とレイアウト」項目。

# Ver.7.2.0の制約事項（解消時期未定）



以下に関しては順次改善を実施します。

- ① Cloud Libraryの提供は、日本国内に限定されます。



# WinActor<sup>®</sup> Ver.7.2.0 リリースノート

NTTアドバンステクノロジー株式会社

Copyright(c) 2021 NTT Corp. & NTT Advanced Technology Corp. All Rights Reserved.

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。  
本書の内容は予告なく変更される場合があります。

64-G-1225

未来を拓くチカラと技術。

